

# 正かなづかひ 理論と實踐

内容見本

第6號

# 本誌の方針

歴史的仮名遣は二十一世紀の現代にも生きてゐる。

- 一 全頁が歴史的仮名遣（正字正かな、または新字正かな。固有名詞や引用文などは除く）。
- 二 「似非旧仮名遣」ではなく、本物の歴史的仮名遣。
- 三 同人誌のレベルを越えた商業誌並の内容とデザイン。
- 四 「歴史的仮名遣」懐古趣味」といふ先入観の打破。

表紙  
題字  
カッ  
ト

野 嵩 貴 子  
山 口 翔 平  
野 嵩 健 秀  
コシヌケ1040  
酒井景二郎

# 巻頭言——伝統に随したがふ道を見直さう

押井徳馬

まづ最初にお断りしておきますが、本誌は誰かが単純に現代仮名遣いを使つてゐるだけで非難する意図はありません。本誌を編輯・執筆してゐる吾々でさへ、学校や会社や役所へ提出する書類等、日常生活では現代仮名遣いを使つてゐます。理想は忘れないのですが、こんな現実もあります。それに、現代仮名遣いを使つてゐる人々とも普通に仲良く文章を遣り取りしてゐます。

そして、「現代仮名遣いを廃止して歴史的仮名遣に戻すやう政府に働きかける運動」をしてゐる訣けつでもありません。戦後の新字新仮名導入の時の様に反対を押し切つてまでも強行するなら、いくら良いものであつても後々問題になるだけですし、そもそも、いちいちお上にお伺ひを立てなくとも、吾々は勝手に歴史的仮名遣を使ふだけです。実際、俳句や短歌をはじめ、今なほ細々と生き続けてゐる表記です。

「歴史的仮名遣の美しさに惹かれて」「レトロな表記が大好き」「現代仮名遣いは作られた経緯も内容も問題があるので」「吾々が歴史的仮名遣で書く理由も色々ありますが、それを「現代にはふさわしくない」「皆が読みづらい書き方をするな」「もはや現代仮名遣いこそが国語の伝統なのだ」と否定されるのが悲しいのです。「少くとも、どんな経緯で現代仮名遣いが出来たのか位は調べてから言つてよ」と言ひたくなる事ばかりです。

古来の正字正仮名（所謂旧字旧仮名）が伝統か、後発の新字新仮名こそ伝統か

それでも、「過去にどんな経緯があろうと、我々は両親の使つてきた日本語を受け継いでいかなければなら

ない。それは新字新仮名であり、それを使う事こそが伝統を受け継ぐ事だ。『正しい表記を自分で選ぶ』なんて自分勝手な発想など、あつてはいけない」と云ふ意見がもしあつたなら、吾々はどう答へれば良いでせう。アンチ旧字旧仮名の人々に言はせれば、新字新仮名を使ふ事こそが「国語の伝統を守る」事。その考へによれば、吾々は親や祖父母の守つてきたその「伝統」に刃向ひ、自分で選べないはずの「正しい国語」なるものを勝手に決めて「選ぶ」などと云ふ愚行を犯してゐる、と云ふ事になります。

しかしこの考へには問題点があります。一つは、所謂旧字旧仮名から新字新仮名に切り換へた時点で、既に伝統を捨ててゐる、と云ふ事実を無視してゐる事です。それに、事実上の多数勢力をいつも正しいとするのも「赤信号 みんなで渡れば 怖くない」と同じで問題となります。更に、伝統の総てが正しいとは限らず、時には間違つた方向へ向いた伝統、後世に伝へてはならない悪しき伝統も無い訣ではありません。

### 「伝統を選ぶ意義」を問はれる、伝統の危機

ともすると吾々は、昔からの伝統を「元からあるもの」として当り前に受け入れ、まさかそれを他の物と比べて「選び取る」なんて考へもしないものです。さう、対抗勢力が登場しないうちは。しかし、その伝統を脅かす対抗勢力が現れると状況は変わるものです。「それでも敢へて吾々がこちらを守り続ける、選び続けるのは何故か」を考へざるを得なくなります。

正字新仮名にしても、国語改革より前は「昔から当り前に存在したもの」で、表音仮名遣（現代の標準語の発音に随したがつて仮名を綴る方式で、現代かなづかひのベースとなつた）ではなく敢へてそれを「選ぶ」と云ふ感覚はあまり無かつたと思ひます。

しかし新字新仮名優勢の現代では、「それでも敢へて正字や正仮名を表記として『選ぶ』」意義について否応無しに考へさせられる事になります。そもそも、『選ぶ』ものではなく、初めからそこにあるもの」と云ふ言葉に相応しいのは、現代においては、正字新仮名ではなく新字新仮名です。もしかしたら、百年も使は

れば世間も新字新仮名を次第に「伝統的な国語表記」扱ひするやうになるかも知れません。

成程、確かに伝統を尊重する事は大切ですが、「その伝統のルーツは何処にあるのか」「我々がそれを守らねばならないのは何故か」と云ふ事を意識しなければならぬと私は思ひますし、時には「悪しき風習を自分達の世代で断ち切る」(私はこの「悪しき風習」に「漢字はなるべく数を減らすべきだ」とか「歴史的仮名遣を時代遅れで要らないものと馬鹿にする考へ」を含めたい)事も必要なものです。そのやうに「選ぶ意義」について思ひを巡らせる事は、必ずしも、伝統の不信と繋がる訣ではありません。「先祖代々守つてきたもの」に留まらず更に強力な動機付けを与へられる事により、なほ一層信念が強まるかも知れません。

「他の道も目の前にあるが、それでも敢へて私は先人の歩んだこの道を選ぶ」と云ふ意味で、伝統を「私の選んだ道」と呼ぶのであれば、むしろ褒めるべき事ではありませんか。それに、伝統と云ふものを「初めからそこにあるもの」と安易に考へるだけでは、油断してゐると、あつと云ふ間に廃れるものです。後世の人々一人一人が自発的に「選び続ける」事で、伝統は繋がつていくものだ、と私は信じてゐます。

昔の文献を調査したり「旧字旧仮名」をコンピュータで扱ふのを得意とし「私は歴史的仮名遣を愛す、尊重する」と言ふ人々の中でさへも、「昔の表記としては尊重するが、今は現代仮名遣いが社会的な決まりなのだから、現代人の表現活動に歴史的仮名遣はふさわしくないし、見ていて気持ち悪い」と反対する人が一部に見受けられます。「良い歴史的仮名遣とは死んだ歴史的仮名遣」とでも言ふつもりなのでせうか。このやうに歴史的仮名遣が「要らない子扱ひ」「博物館の剥製扱ひ」される事は、吾々にとつて悲しく、悔しい事です。時にはその思ひが、歴史的仮名遣による表現活動に反対する人に対するきつい非難の言葉として口から出る事さへ有るかも知れません。とはいへ、現代において敢へて歴史的仮名遣で書き綴る事の「楽しさ」こそ、是非とも伝へていきたいと思つてゐます。本誌はその為に発刊されましたし、今後もさうしていきます。

# 目次

巻頭言	.....	押井徳馬	3
変体仮名ウォッチング	.....	押井徳馬	9
正かなエッセイ	.....	.....	16
めんへらん星人と純白の意思	.....	刑部しきみ	22

## 特輯「食」

熊のズボラ飯（関西風きつねうどん篇）	.....	くまくん	55
日本食べ歩き	.....	押井徳馬	58
北極ラーメン	.....	隅須ゆとりーな	70
ラーメン二郎	.....	押井徳馬	72
カルボナーラは試金石	.....	押井徳馬	76
ホワイトチョコレート	.....	古北	78
ごはんいろいろ	.....	野寄健秀	80
食へるもの、食へないもの	.....	名賀月晃嗣	82
梅酒を漬ける話	.....	野寄健秀	84
仔猫と餡パン	.....	遠山信男	86
他愛無食句！	.....	越智おでん	88
夜食の友	.....	野寄健秀	90
お気軽コーヒードリップのススメ	.....	blueday	91

ソリユブルコーヒー	酒井景二郎	97
マックスコーヒーとドクターペッパー	押井徳馬	100
星を食ふ話	野寄健秀	103

## 國語問題

ブックガイド（國語問題の本を中心に）	押井徳馬	106
筆記體の利點	押井徳馬	116
私が正字正假名を使ふ理由	血起ばさら	117
歴史的仮名遣に纏はる思ひ出	名賀月晃嗣	119
昂然と顔を上げよ	野寄健秀	121

## その他

小特輯「ボエム」私の志集	酒井景二郎	123
失意のどん底	酒井景二郎	136
カルメラ・ダンゲーと魔女の黒猫	名賀月晃嗣	138
鹿に遭遇したといふだけの話	酒井景二郎	155
空心斎の受難	名賀月晃嗣	158
ブラックジョーク集	押井徳馬	162
あたご乗艦記	名賀月晃嗣	165
紙の闇黒日記	野寄健秀	168
原稿を書いてみませんか／編輯後記	野寄健秀	175

コラム

トマト	.....	71
がつがつ	.....	77
「正字正かな」という言葉には抵抗がある」	.....	79
「性癖」は性的嗜好の意味ではない	.....	81
も ず ぐ	.....	85
二次元はハーレムではない。	.....	87
デファクトスタンダードは強し	.....	87
懐中することいふのは	.....	99
は み ご	.....	102
繪畫の見方	.....	104
漢語の復権	.....	115
十 七 歳	.....	116
「旧字旧仮名にこだわるなら万葉仮名で書け」	.....	118
語頭以外のア・ワ行をハ行に	.....	120
鶏肉の皮	.....	122
北海道と沖縄は海外?	.....	137
キツツキ	.....	154
佛 壇	.....	161
ピーマン	.....	167

## 変体仮名ウオツチンダ

変体仮名とは、現在一般的に使用されてゐるひらがなの字形とは異なる崩し方をした字の事です。学校教育においては、明治三十三（一九〇〇）年に変体仮名を教へなくなり、それから一世紀以上経ちました。しかし戦前の文献を読んでみると、手書きの看板の文字等においては使はれ続けてきたやうです。

そして、それは現代においても細々と生き続けてゐます。身近な例としては、「うゑぎ（うなぎ、「奈」の別の崩し方）」「生ぢぢ（そば、「楚」「者」の崩し字）」等がさうです。実は、目まぐるしく変化し続ける街である秋葉原でさへも、変体仮名の看板が生き残つてゐます。こゝでは、秋葉原や神田の変体仮名の看板と、おまけとして歴史的仮名遣や正漢字の看板を集めてみました。



レストランいこい（閉店）

押井徳馬



万世橋（戦前の左横書き？）



看板の片面は左横書き、その裏は右横書き（車に似た方式ですね）

## めんへらん星人と純白の意思

刑部しきみ＋TEAM JNS  
繪 コシヌケ1040

### プロローグ…宇宙人の面接

宇宙人就職支援給付金で、就職活動や労働をするときに必要な「スーツ」といふ衣服を買った。「服」といふものは著慣れないので、服屋の店員のおススメよりもワンサイズ上を用意して貰った。やはりダークグレーよりもライトグレーがボクにはピッタリな感じがする。気がするだけだけど。

空港近くのビジネスホテルで目を覚ましたボクは、スーツを着て、鏡を見ながら無難な紺色のネクタイをハーフウインザーノットでカッコよく締めると、なんだかちやんと日本人らしく振る舞へさうで少し安心する。敵対心を抱かせないやうに、軽く歯を見せて笑ふ練習。洗顔も歯磨きもバッチリ。よし。

ビジネスホテルの小さな窓の空に點々と見えるのは、ボク

の憧れのあの子（車はあの子と云ふに決まつてる、特にボクの星ではね）。でつかくて、地上を走れるし宇宙空間も飛べる。ボクがまだ金星の田舎に住んでゐた頃に免許を取つて、仕事で乗つてゐたのは勿論、プライベートでも家庭用のあの子を買った。大きさは取り回しが良い様に、実際のサイズの半分程度だったのだけれども、それでも街で走れば随分大きかった。

こんなにカッコよくて、素晴らしいものが、地球の日本といふ國で作られてゐると知つたのは、買つてから随分後になつてからのだけれども、乗つてゐても兔に角氣持ちの良い乗り物だった。しつかりしてゐるし、丈夫だし、何よりもセンスが良い。

地球に移住するにあたつて賣却してしまつただけけれども、ちやんと手入れしてゐたお陰で、結構いい値段で賣れた。買つてくれたのは同じく金星の有名な収集家だつたし、きつと

あの子は向かうで良きライフを楽しんでゐるに違ひない。

あの子の働くメツカ（と云つたらダメ、と日本語學校で習つたけれど、敢へてかう云ひたい）である宇宙興産での志望部署は、勿論資材運搬業務だ。人氣の業務だけれども、地球人、特に日本人は好きな様に乗り回せる環境が少ないので、入社までに實際に運轉できる者は割りと少ないと聞いた。だつたらボクはとても有利だ。あの子の運轉は馴れてゐる。

さあ、面接の時間が近づいてきた。

何處まで行けるかわからないけれども、やつてみなければ分からない。

ボクは受かる、さう自分に云ひきかせながら、ホテルのドアをゆつくりと開けた。

人の數もまばらな電車を降りると、冬の始まりを告げる微かな寒さが頬を撫でた。

事務所まではさう遠くないが、やはり少し冷える。手に息を吐いて二、三回こすりあはせ、鞆から取り出した薄手のス

ートルを首に巻いて、私は屬まづかさんの事務所へと急いだ。今日はワードローブから引つ張り出してきたウォームグレーのスーツにして正解だつた。

「お疲れ様です、只今戻りました」

時間的には丁度晝休みが終はつた時間だらうか。私がさう云つて事務所のドアを開けると――

「瑠璃さんおめでたうございます！」

「おめでとーさーん」

パンツ　パンツ

ドアを開けた瞬間、クラツカカーの音と祝辭の言葉とともに出迎へられた。

さう。私は今日、麻薬取締員として正式に認められたのだ。辭令交付式は私一人の實にささやかなものであつた。

「ありがとうございます」

私は頭を下げる。

「つひに式谷ちやんも僕らの仲間チャの」

「ツスね」

二人は我が事の様手に手を取つて喜んでゐる。と云ふか、手に手を取つた後で更にハイタッチである。

「この通り新米ですので、變はらぬご指導ご鞭撻の程を」

さう云つて頭を下げると、

「いやいやそんなのはええから」

と屬さんが手をひらひらと振つて遮る。良いのか。

「今日はお祝ひッスー!」

「合點承知、既に辭令交付日の今日に合はせて居酒屋『ええころはちべゑ』の個室豫約済みー!」

「いえー、パチパチパチー」

私の知らぬ所で既に勝手に豫定を立てられてしまつてゐた。まあ、かういつた些細な事で、自宅で何か祝ひの席が設けられる訣でも無いし、此處での知り合ひといへばこの二人位しか居ないので、折角のお誘ひを拒否する理由は何處にもない。

さう云へば、よく見ると二人の今日の服装はどこか少しおめかししてゐる氣がする。他人のファッションを見るのは大好きだ。自分のファッションにはあまり頓著しないのだけけれども。

屬さんは先日堂々と此處のパソコンから通販で頼んでゐた、フード付きのスマートなブルゾンの下に、淡いグレーのシャツを着てゐる。リメイク風のダメージデニムパンツもどこか

か忘れたがブランド物だつたと記憶してゐるし、今日はなんとまあ、バケットハットなんかも被つちやつてる。

チエック柄のノーカラージャケットと同柄のスカートを著たルチルは、中にビジュウの著いた黒いカットソーか何かを著てゐる。なんといふか、いつもより「キレイ目」を狙つてゐる感じがする。逆毛を立ててアップした髪にはリボンモチーフ型にストーンが竝んだ髪飾りがあしらつてあり、ちよつとゴージャスだ。寒いから黒のストッキングを穿いてゐて、パンプスもビジュウの著いた黒だ。ジャケットが随分目立つのでその分引き算してゐるのだらう。因みにメイクは朱赤のリップが主役のやうだ。

「なんか同じ土俵に瑠璃さんが入つてきたと思ふと、超力強いッスね」

「さうチャの。なんせ高性能の【見える】技能の持ち主チャしの。」

「まあ、それだけなんですけど」

「何を仰るウサギさんカメさん式谷さん! しつかり逮捕術も覺えたし、學生時代に培つた法律の知識もあるし、とどめはメンヘラン星人を素手でとつ捕まへた事があるし、もう何も云はずとも既に立派な麻薬取締員ッスよ!」

さう力強く云はれたものの、實際に使つた事のない技術と

昔取った杵柄、あと下手をすれば國際問題になる。「一般人」の問答無用の素手での確保——如何にも自信が持てないのが正直な所だ。ルチルの何處までも眞つ直ぐすぎるその視線に堪へ切れず、私は少しだけ目を逸らした。

「さう。チャからこそ、私は素人です、と云ふ言ひ訣も出來んチュウ事でもあるの」

屬さんの云ふ通りだ。私はもうプロとして、言ひ訣の出來ない立場になつた。責任を取らなければならないといふ事である。

「はい」

そして、腦裏に浮かぶのはあの——不定形の血溜まりそのものの様な宇宙人——メンへらん星人の女の、裂けたやうな口が歪にかたちどる、不氣味な笑顔である。

もう一度。次は必ず捕へる。必ず、だ。

私は耳の奥で「ぎしり」と氷が擦れて鳴るやうな、冷えた決意を奥歯で噛んで飲み込む。一度目は私のトラウマとなり、二度目は捕まへ損ねた。三度目。次は、ない。殺してでも勝つ。

半年以上かけて、曰く「異例の早さで」麻薬取締員となり、敵對的宇宙人をうつつかり殺してしまつても罪に問はれない身

分となつた私は、云ひ換へれば『奴等を狩る身分を得た』のだ。最大限に使はせて貰ふ。

「今日はそはそはして仕事の手につかんの」

「サツカンが御飯食べられて嬉しいだけでせう、しつかりしてくださいナ？」

「いやまあ、勿論。へへへ」

私もそはそはしてゐる。落ち著かない。この得た立場に。

あと、宴會のご馳走に。

午後六時五十五分。

豫約時間の五分前に『ええころはちべゑ』を訪れると、店長が笑顔で出迎へてくれた。此處に来るのは例のメンへらん星人襲撃の事件の後一度だけで、その後はなかなか日程が合はず、今日でやうやく二回目だ。

お店の看板にはご丁寧に「祝 式谷瑠璃様 御一行様」と、きれいな字でどかく書いてある。凄く耻づかしい。

「いらつしやいませ。本日は式谷様が麻薬取締員になられたとの事、心よりお祝ひ申し上げます。どうぞ、こちらへ」



店長を先頭に、騒がしい席の合間をずっと横目に通りぬけ、二階の個室ゾーンにたどり着くと、一階の喧騒がまるで嘘のやうに、しんと静まり返つてゐる。

「お席は一番奥となつてをります」

部屋は一見何の變哲もない和室だが、實は此處の二階はさりげなく全室防音ルームでもある。こちら邊の社長や重役たちは好んでこの部屋を使ふさうで、當日いきなり席が取れる日は少ない。因みに店長の趣味で休みの日にはギターやボーカルの練習場になるといふのが、屬さんがスタツプから仕入れた噂である。店主はライブハウスも經營してゐるらしいし、多分本當なのだらう。

食卓には既にいくつかの料理が並んでゐた。外が冷えてゐたので暖かな鍋の湯氣が嬉しい。

「何處に坐りませうか」

私がさう聞くと、

「主役は上座ツスよ」

「そーそー」

私が小さな床の間の前の席に著くと、ルチルは入り口に一番近い場所に坐り、その向かひ側に坐つた屬さんが「さて」

と云ひ——一度パン、と手を鳴らした。

「食べる前に——酒を頼まう」

「取敢へず『桃始華』は基本ツスよね」

「おう。すみません、桃始華常溫で三つ……いや、もう瓶そのまま持つてきて。コップ三つね。それから……」

二人はお酒だのつまみだのの註文をどンドン店長に云ひつけてゐる。……食べるのか？

ひとしきり註文の終はつた處で、先づはキンキンに冷えたビールで乾杯をした。

ビールはあまり得意ではないけれども、「とりあへずビール」が日本の慣習である。

「ぶはッ……あー、祝ひの席で飲むビールはええなう」

屬さんはあつといふ間にジョッキを干してしまつた。早い。「さ、瑠璃さんも食べませうよ、ここの山賊焼きはでかいし、鶏が柔らかくて美味しいツスよ」

とルチルに促された。私はテーブルの上で、ひとときは目立つ山賊焼きなるものを見た。おそらく手羽だと思はれる部位が、こんがり焼かれて太い竹の串に刺さつてゐる。野趣あふれる見た目である。竹——一瞬思ひ出したその顔を、私はまばたきをゆつくり一回して、そつと心に留めた。徐ろに竹の串を左手に持ち、箸で身をほぐさうとした途端——

「式谷ちやーん、それはかぶりつくもんツちゃ。お上品に食ふもんぢやないんよ」

屬さんにさう云はれて、そろりと箸を置いて適當に肉にかぶりついた。タレの甘辛さと柔らかい鶏の肉が口の中に広がる。これは美味しい。

「美味しいですね」

「ぢやらうが」

何故か屬さんが妙に誇らしげである。屬さんの作つた料理でもないのに。

ルチルが徐ろにお鍋の蓋を開けると、ふぐやかハハギなどが入つてゐて魚と野菜たつぷりである。實に美味しさうだ。

桃始華といふ名の日本酒が運ばれてくると、二人がにはかに沸き立つた。

「おッ、来た」

「きたー！ あ、ありがたうごいまーす」

ルチルは店員が持つてきたコップ三つと桃始華の乗つた盆をいそいそと受け取り、手際よく桃始華を注いでいく。私は東京にゐた頃にテレビでこのお酒が美味しい、と名前を聞いただけで、飲んだ事がないので良く分からない。そもそも私は日本酒を殆ど飲まないのである。飲み過ぎて酔はなければいいのだけれども……。

正假名漫画

熊のズボラ飯



肉西風  
まっね  
うどん  
作るよ!



③ お揚げを炊いて  
(ゆでて)  
お湯を捨てる  
それを三回位  
繰返します(油抜き)



④ ニヤキーン  
空気が抜けて  
ニヤ〜に  
なると  
味がしみやすい  
のです

④

〈お揚げ〉

材ニ) 油揚げ 2枚

人 出汁(カツヲとシラ) 100ml

料前) 砂糖 大サジ1杯  
淡口醤油 1杯



〈うどんのつゆ〉

出汁(カツヲとシラ) 400ml  
(水400ml+だしの素4g)

日本酒 大サジ1杯

淡口醤油 1杯



※うどん、ネギやカマボコ等の具も必要

⑤

⑤ 出汁と砂糖

トを入れ  
落しフタをし  
炊く事二十分



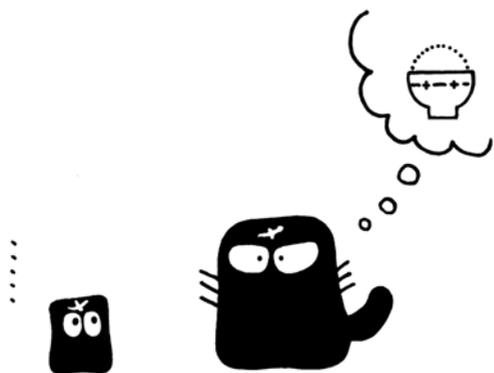
※保温調理鍋があると便利!

豆知識

この漫画に正字と略字が混在するのは、戦前の手書き文字の實態(略し方は飽くまでも一例)を再現したため。

## 日本食べ歩き

旅行の楽しみの一つは「食」。  
近場から遠征まで、様々な場所で撮影した食にまつはる写  
真を紹介します。



開き戸風引き戸の震で一見さんお断り「がんこラーメン」(閉店)

押井徳馬



少し湿つてゐるけれど、懐かしい昭和の味。



丼は発泡スチロール。うどんの上には天麩羅が。



秋葉原の「肉の万世」裏にある自動販売機群が面白いと一部で評判。



飲み物に交じってミートソース缶 (210円らしい)。左はアロマキャンドル！？

## ラーメン二郎

押井徳馬

「強力粉は何を作る時の小麦粉？」と聞かれて「パン」と答へる人は普通の人だが、「ラーメンの麺」と答へる人は、きつと「ジロリアン」（ラーメン二郎の熱烈なファン）である。

あれは五年くらゐ前の事だつたらうか。仕事の終つた夕方に品川インターシティから道路を渡り、南側の細い路地に入ると、あるラーメン屋の前に長い行列がある事に気付いた。男ばかり二、三十人。行列の先には、黄色の幌布に黒い字で「ラーメン二郎 品川店」とあつた。

店の名前には聞き覚えがあつた。行列が長い、特徴的な味、色々なお作法があり絶対厳守。本當か嘘かわからないが、「あゝ、あれが噂のラーメン二郎かー」と、すぐわかつた。

今日から私もラーメン二郎のファン、通稱「ジロリアン」の仲間になるのだ。さう心に決めた私は、その列の最後尾に竝ぶ事にした。そしてあの噂のラーメンを食べられる順番を、まだかゝ〜と心待ちにしてゐた。

少々獣臭いラーメンの香りの漂ふ中を待つ事四十分。牛歩のやうにのろのろと進んでやつと辿り着いた店の入口には、食券の自動販賣機があつた。「小」「小<sup>せう</sup>」「小ブタ」「中」「中ブタ」等と書かれた中から、「小ブタ」を選んだ。初めてのラーメン屋である、どれだけの量が標準なのかわからないので、「小」にするのが無難だ。しかしチャーシューは多めがいいだらう、さういふ判断だつた。ボタンを押すと、カラリと軽い音を立てて、プラスチック製のプレートが取出口に落ちてきた。

中はカウンター席のみ約十人分。そしてやつと自分の席が空くと、はやる気持ちを抑へながら着席し、食券を出した。周囲を見ると、一言も話す事なくラーメンを食べる事だけに熱中してゐる。

カウンターの前には貼紙があつた。

お出しする時に伺います

# お気軽コーヒードリップのススめ

blueday

## はじめに

コーヒーといへば喫茶店ありインスタントありコーヒーメーカーありドリップバッグあり、と現代日本人には大変身近なものである一方、人によつて割とはつきり好き嫌ひの分かれる代物ではないかと思ひます。苦味を主とする飲食物の宿命とでも申しませうか、素のコーヒーはダメでもカフェラテなら大丈夫だとか、あくまで甘々飲料のための素材としての価値しか認められてゐない感もあります。

苦味といふのはそもそも「おいしくない」に直結しやすい味覚である一方、苦味のおいしさを理解してこそ大人の味覚だ何だと申したりもしますが、そんな事はさて置いておいしいコーヒーはおいしいしおいしくないコーヒーはおいしくない、と思ふのです。当たり前ですかさうですか。

でもですね、この点は大変重要だと思ふのです。おいしく

ないコーヒーにばかり当たつてしまつた人がやがて「コーヒーはおいしくないもの」といふ認識に染まつてしまひ、コーヒーを忌避するやうになつてしまふ。それは大変不幸な事ではないでせうか。

それにしても最近、コンビニの店頭で挽きたての豆から淹れるドリップコーヒーを100円で買へたりするわけで、しかもこれが無難においしいときてはコーヒーの地位向上への寄与甚だしいと言へるでせう。これならもう自分でドリップする必要もないよね……つてそれは困る。この文章の目的が失はれてしまふではないですか。

といふわけで、危ふく自殺行為に及んでしまふところでしたが寸前で立て直して。今やお店でお気軽にお安く買へるコーヒーですが、それをおうちでも「お気軽に」楽しんでみませんか、といふのが拙文の本題となる訳です。前置き長過ぎですかさうですか。

まあそれはそれとして、私の偏見と経験とに基づく、役に

立つんだか立たないんだか分からないコーヒードリップのお話  
に宜しくお付き合い下さい。

### ペーパードリップで万全

コーヒーの淹れ方には色々あります。それによつて味がかなり変はつてきたりするので、さういふ楽しみ方もコーヒーにはある訳なのですが、拙文のテーマはあくまで「お気軽に」です。ネルドリップはネル（布フィルタ）の管理が大変ですし、コーヒープレスは豆の後始末が一手間です。サイフォンは道具だけで大掛かりになりますし、水出しは時間が掛かり過ぎます。

それに比べてペーパードリップ（紙フィルタでの抽出）は非常に楽です。本当に楽です。死ぬほど楽です。この点「お気軽に」といふテーマとがっちり合致します。といふわけで、ここはメリタ・ベントさんに多大なる感謝の念を捧げつつ「ペーパードリップで万全」と申し上げておきたいと思ひます。いや私もね、道具は色々買つてみたりはするんですが、面倒だとすぐ使はなくなつちやふんですよ……。

さて、淹れ方をペーパードリップに決定してしまへば、揃へる道具も決まつてきます。（手動の）コーヒーマル、ドリッパ、サーバ、ポットといったところでしょうか。メリタ、カリ

タ、ハリオといったメーカーの製品が無難なところです。全部揃へても五〜六千円程度ですので、Amazon辺りでできくツと購入してしまひませう。

手動コーヒーマルはいかにもそれらしい形のものもあれば、最近では金属とセラミックで出来た、水洗浄可能な代物もあります。見た目の好みや取り扱ひ易さ、衛生面等を勘案して好きなものを選びませう。豆を手動で挽くのが面倒だ！といふ人は電動ミルを買つても良いかと思ひますが、出費の増大は覚悟しませう。電動ミルの価格はものによつて数千〜数万円と様々ですが、回転歯で豆を砕くタイプのミルは安い代はり均一に挽けないらしいので、臼タイプのものを選びませう。ドリッパはプラスチック製のものが壊す心配が少なくて良いでせう。上に挙げたメーカーのものならどれでも問題はないと思ひますが、ペーパーフィルタは買ったドリッパ専用のものを使ひませう。ドリッパの形状にフィットするやうに作られてゐるので、ドリッパが効率よく出来るとか何とかムニャムニャ（テキトー）。

サーバは底に穴が開いてゐたりしなければ何でも良いです（超テキトー）。極端な話、マグカップに直接受けても何ら問題無いと思ひます。

ポットはちやんとコーヒードリッパ用の、注ぎ口の細くなつた専用のものを用意しませう。普通のやかんで一度に注

## マックスコーヒーとドクターペッパー

押井徳馬

千葉県や茨城県の子供達は、コカコーラの自動販売機に「マックスコーヒー」や「ドクターペッパー」が並ぶ様子を当り前だと思つてゐる。そして子供の頃から飲み慣れてゐるので、あのコーヒー牛乳以上に甘い練乳の味も、コーラとは少し違ふ少々薬臭い味はひも、すつかりお馴染みの味になつてゐる。私もさうだつた。

しかし、県外に出たある日、現実に気付く事となる。マックスコーヒーもドクターペッパーも、千葉県や茨城県を出るとほとんど売られてゐない。他県の知り合ひが出来ると「ドクターペッパー？ 一度飲んだ事があるけど、不味かつた」と云ふ反応ばかり返つてくる。個人的な好き嫌ひの問題なので仕方ないけど、あんなに美味しい飲み物は無いのにと、正直なところ残念な気持ちになる。

### マックスコーヒー

私の知る限り、日本一甘い缶コーヒーだと思ふ。昭和時代は缶コーヒーと云ふと「甘い」ものが普通で、たとへば、「U



「CCオリジナル」はその代表だった。コーヒー牛乳も「雪印  
コーヒー牛乳」や「パレードコーヒー」など甘いものばかり。  
当時はあのマックスコーヒーと云へども、相対的に見て「強  
烈に甘いコーヒー」と云ふ程ではなかった。

昔は「ジョージア」ブランドではなく、「利根ソフトドリ  
ンク」といふ別会社で作つてゐたが、コココーラと同じ流  
通ルートに乗つてゐたので、千葉県や茨城県のコココーラ  
の販売機の殆どに並んでゐたものである。別会社にしたの  
は、米国コココーラ社が缶コーヒーを出す事に消極的だつた  
時代の苦肉の策と言はれてゐるが、当のコココーラ社もす  
ぐ「ジョージア」ブランドを立ち上げて成功を収めてゐる。

一九九〇年代初め頃には「マックスコーヒー」も「ジョージ  
ア」缶コーヒーの一つとして取り込まれ、今でも千葉県や茨  
城県を中心に販売されてゐる。

缶コーヒーと言へば甘い「UCCオリジナル」だつた昭和  
は遠くなりになり。今は甘さを抑へた「ジョージア」「ボス」  
が流行つてゐる時代。実は、地元民でさへマックスコーヒー  
離れが進んでゐる。しかし、それでもたまに強烈に飲みたく  
なる事がある、懐かしい味である。

蛇足ながら、「ジョージア」ブランドになる前には、「マッ  
クス ブレンドコーヒー」と云ふ名前のショート缶も発売さ  
れてゐたが、現在は無くなつてゐる。私は飲んだ事が無いの

で、どんな味だつたのかは残念ながら知らない。

### ドクターペッパー

コーラのやうな色だがコーラではない、「20種類以上のフ  
ルーツフレーバー」が宣伝文句の、米国生れの炭酸飲料。  
これもマックスコーヒーと同じく千葉県や茨城県のココ  
コーラの自販機でよく見掛けるが、東京都でも時々見掛ける  
のが嬉しい。

昭和時代にドクターペッパーに出会つた人の中には、「ガ  
ラス瓶入りのドクターペッパー」を飲んだ事があると云ふ人



も多いだらう。キャンペーンで王冠の裏に当りくじが付いてゐる事もあり、駄菓子屋に集まる子供達にも大人気だった。残念ながらガラス瓶入りのものは今では見掛けなくなり、缶入りとペットボトル入りだけになってしまったが、炭酸の圧が高い事が多いので、開封する時は要注意。特に自販機で買った場合はかなりの確率で吹きこぼれてしまふ。

なほ、最近はデイスカウントストア「ドン・キホーテ」で類似品の「ドクタースパイス」と云ふ炭酸飲料が売られてゐるが、ドクターペッパーを飲み慣れてゐる私にはせれば、全くの別物と呼んで良い味だった。とにかく味が薄い。話の種に一度だけ飲んでみるのも面白いかも知れないが、本家の「ドクターペッパー」が入手可能なら、こちらの方を強くおすすめしたい。



## はみご

ある夜、何気なく「はみご」といふ言葉を使つたら意味を訊かれたので、あれ、そんなものかなと思つた。方言だといふ認識は一往はあつたのだが、そこそこ通じるといふ妙な思ひ込みをしてゐたらしい。「はみご」とは「仲間外れ」を意味する言葉で、屢々「はみごにする」といふ形で使ふ。

見たことのない語、他所で見ない語は認識し易いが、同じ語の意味用法に差があつて通じないといふこともある。近畿では片付けることを「直す」と言ふが、布引山地を越えて伊勢国に行つたら通じなかつたので戸惑つたやうなことがあつた。これは割合知られてゐさうな例なので、もう一例。当地（伊賀国）では、車は「詰む」もの、机は「吊る」ものである。標準語で言ふなら、前者は混雑する、渋滞するの意、後者は吊り上げて運ぶの意。他所では見ない表現よりも、実は意味がずれてゐる言葉の方が、場合によつては余程厄介かも知れない。（忍）

# しよし 書肆 言葉言葉言葉 既刊の御案内



## おもちゃんとすまいるくん 1～3

野崎氏のウェブサイトの一コーナー「<sup>あんこく</sup>闇黒日記」で人気の漫画が冊子に！

おもちゃくん、すまいるくん、にやもちくん、へらへらさん等、おもちゃみたいな不思議な生き物（クリーチャー）達の日常生活を描く、お気楽四コマ漫画！

野崎健秀・著／各 300 円



## あなたも文章が書ける

文章を書くに当たつての心構へを解説。

野崎健秀・著／2013年11月発行／300円

## 闇黒日記抄 前史—1998—2000

サイトで人気のコーナー「<sup>あんこく</sup>闇黒日記」の1998-2000年の記事からの選り抜き。

野崎健秀・著／2013年8月発行／400円

## 九段下ビル

最近解体された昭和初期のモダニズム建築「九段下ビル」の写真と資料。

野崎健秀・著／2012年5月発行／400円

## 調布駅、地下へ

「開かずの踏切」解消の為に地下化した調布駅の前と後の姿を写真で綴る。

伊川清三・著／2012年11月発行／500円

御注文ははなごよみまで：<http://osito.jp>

## あゝ玉杯に花うけて



佐藤紅緑

大日本雄辯會講談社

昭和三年四月三日發行

昭和45年6月28日第1刷発行

(復刻版)

向学心があるが中学へ進学出来ず悲しむ貧しい豆腐屋のチビ公(千三)、助役の息子で、他人の食べ物をつ捕る暴れん坊の生蕃こと巖等、個性的な登場人物が登場する少年小説。昭和二年から翌年にかけて、少年雑誌「少年俱樂部」に連載されてきた作品である。男の友情を描く戦後の少年漫画にも共通する部分があり、楽しく読めると思ふ。

カンニング未遂事件、不正揉み消しの為に書類を燃した役場が火事になった事件、野球の試合、差出人を偽った手紙の事件等、様々な物語を通じて、学問を修める事の意義や正義とは何かといったテーマを扱っていく。

私が中学生の頃に新学社文庫の新字新かな版で初めて読んだ時、「何て蛮カラで、古い戦前の思想を反映した本なのだらう」と思つてみたが、今改めて読み返してみると興味深い。

この本は現代から見て左翼的か右翼的かと問はれれば、皇国史観的な部分もあつたりと、まあ、右翼的だらう。しかし、貧しかつたチビ公が様々な仲間と出会ひながら一高を目指す様子を読み進めると、現在の右翼的な思想からあまり見られなくなつた、貧者への暖かい眼差しを感じるものである。それに、「社會主義の同人雑誌から盗んだ」手塚の演説のシーンは、社會主義思想の流行つてゐた当時の世相を反映してゐて興味深い。

吾々正字正かなを愛する者に興味深い記述としては、国粹主義者であるカトレットこと朝井先生の出て来る部分。当時、左横書きは西洋風、右横書きは日本風といふ印象があつた事がわかる。

最後に苦言を。残念ながら、戦後各社から復刊されたものや、ウェブサイトで「青空文庫」で無料で読める版は、新字新仮名に改められてゐる。たゞ新字新仮名にするだけならまだいいが、漢字が大幅に削減されて、ひらがなだらけの文章になつてをり、原文の持つ雰囲気や損ねてゐるのではないかと私は感じる。きつとカトレットが見たら激怒するに違ひない。私はつい最近、昭和四十五年に「愛蔵復刻版 少年俱樂部名作全集」として当時の装幀とペー지를覆刻した版を入手して、やうやく正字正仮名の原文で読む事が出来たが、漢字だとやはり理解しやすい。(押井徳馬)

何かにつけて大澤と生蕃は喧嘩した、それが或日喇叭の事で破裂した。大澤が他の用事をして居る時に生蕃が喇叭を盗んで何處かへ行つてしまつた。これは大澤に取つて由々しき大事であつた。

大澤は血眼になつて喇叭を探した、さうしてとう／＼生蕃が飴屋にくれてやつた事がわかつたので彼は自分の秘藏して居る馬の尾で編んだ朝鮮帽を飴屋にやつて喇叭を取り返した。

『助役の悴でなけりや口の中へ喇叭を突込んでやるんだ』と彼は憤慨した。

生蕃の素行に就いては屢々學校の會議に上つたが、併しどうする事も出来なかつた。英語の先生に通稱カトレットといふ三十歳位の人があつた、この先生は若いに似ずいつも和服に木綿の袴をはいて居る、先生の發音は恐ろしく舊式なもので生徒は皆な不服であつた。先生はキャット(猫)をカットと發音する、カトレットをカトレットと發音する。

『先生は舊式です』と生徒が言ふ。

『語學に新舊の區別があるか』と先生は恬然として言ふ。

『併し外國人と話しをする時に先生の發音では通じません』

『それだから君等はいかん、語學を修めるのは外人と話すためぢやない、外國の本を讀むためだ、本を讀んで彼の長所を取り以て我が藥籠に收めればいゝ、それだけだ、通辯になつて、日光の案内

をしようといふ下劣な根性(こんじやう)のものは明日(あす)から學校(がくこう)へ来るな」

生徒(せいと)は沈黙(ちんもく)した。生徒(せいと)間(かん)には先生(せんせい)の言(こと)は道理(だうり)だといふものがあり、又(また)、頑固(くわんと)で困(こま)るといふものもあつた、が結局(けつぎゆ)先生(せんせい)に對(たい)してはなにも言(こと)はなくつた、英語(えいご)の先生(せんせい)とは言(こと)ふものゝ、この朝井(あさい)先生(せんせい)は猛烈(まうりやく)な國粹(こくすい)主義者(しやうぎしや)であつた、或(ある)日(ひ)生徒(せいと)は英語(えいご)の和譯(わやく)を左(ひだり)から右(みぎ)へ横(よこ)に書(か)いた。それを見て先生(せんせい)は烈火(れつゐ)の如(ごと)く怒(おこ)つた。

「君(きみ)等は夷狄(えいてき)の眞似(まね)をするか、日本(にっぽん)の文字(もじ)が右(みぎ)から左(ひだり)へ書(か)く事は昔(むかし)からの國風(こくふう)である、日本(にっぽん)人が米(こめ)の飯(めし)を食(く)ふ事(こと)と、顔(かほ)が黄色(きいろ)である事(こと)と眼玉(めだま)が漆(うるし)の如(ごと)く黒(くろ)く美(うつく)しいことと、君(きみ)に忠(ちゆう)なる事(こと)と親(おや)に孝(かう)なる事(こと)と友(とも)に篤(あつ)き事(こと)と先輩(せんぱい)を敬(うやまつ)ふ事(こと)は世界(せかい)に對(たい)して誇(こほ)る美點(びてん)である、それを君(きみ)等は淺薄(せんぱく)な歐米(おうべい)の蠻風(ばんふう)を模倣(もぼう)するとは何事(なにごと)だ、さあ手(て)を舉(あ)げて見給(みたま)へ、諸君(しよくん)のうちに眼玉(めだま)が青(あを)くなりたいたい奴(やつ)があるか、天皇(てんのう)に叛(か)かうとする奴(やつ)があるか、日本(にっぽん)を歐米(おうべい)の奴隸(ぬれい)にしようとする奴(やつ)があるか」

先生(せんせい)の涙(なみだ)が輝(かが)いた、生徒(せいと)はすつかり感(かん)激(げき)して泣(な)き出(だ)してしまつた。

『新聞(しんぶん)の廣告(かうこ)や、町(まち)の看板(かんばん)にも不(ふ)心得(こころえ)千萬(ひろく)左(ひだり)からの文字(もじ)がある、それは日本(にっぽん)を愛(あ)めない奴(やつ)等の所(ところ)爲(ため)だ。諸君(しよくん)はそれに惡化(あくわ)されてはいかん、いゝか、かういふ不(ふ)心得(こころえ)な奴(やつ)等(ら)を感(かん)化(くわ)して純(じゆん)日本(にっぽん)に復(かへ)活(かつ)せしむるのは諸君(しよくん)の責(せき)任(にん)だぞ、いゝか、解(わか)つたか』

此(こ)の日(ひ)ほど烈(はげ)しい感(かん)動(どう)を生徒(せいと)に與(あた)へた事(こと)はなかつた。

『カトレットはえらいな』と人々(ひとびと)は嘖(さ)き合(あ)つた。

生番の素行についてはしばしば学校の会議にのぼったが、しかしどうすることもできなかつた。英語の先生に通称カトレットという三十歳ぐらいの人があった、この先生は若いに似ずいつも和服に木綿のはかまをはいている、先生の発音はおそろしく旧式なもので生徒はみんな不服であった。先生はキャット（ねこ）をカットと発音する、カツレッツをカトレットと発音する。「先生は旧式です」と生徒がいう。

「語学に新旧の区別があるか」と先生は恬然<sup>④</sup>としていう。

「しかし外国人と話をするとき先生が発音では通じません」

「それだからきみらはいかん、語学をおさめるのは外人と話すためじゃない、外国の本を読むためだ、本を読んでかれの長所を取りもってわが薬籠<sup>⑤</sup>におさめればいい、それだけだ、通弁<sup>⑥</sup>になって、日光<sup>⑦</sup>の案内をしようという下劣<sup>⑧</sup>な根性<sup>⑨</sup>のものは明日から学校へくるな」

生徒は沈黙した。生徒間には先生の言は道理だというものがあり、また、頑固で困るといふものもあった、が結局先生に対してはなににもいわなくなった、英語の先生とはいふものの、この朝井先生は猛烈<sup>⑩</sup>な国粹主義者<sup>⑪</sup>であった、ある日生徒は英語の和訳を左から右へ横に書いた。それを見て先生は烈火のごとくおこった。

「きみらは夷狄<sup>⑫</sup>のまねをするか、日本の文字が右から左へ書くことは昔からの国風である、日本人が米の飯を食うことと、顔が黄色であることと目玉がうるしのごとく黒く美しいことと、きみに忠なることと親に孝なることと友にあつきことと先輩をうやまうことは世界に対してはこる美点である、それをきみらは浅薄<sup>⑬</sup>な欧米の蛮風<sup>⑭</sup>を模倣<sup>⑮</sup>するとは何事だ、さあ手をあげて見

①カヤツリ草科の多年草。または、その茎であんだむしろのこと。②便所。③いまわしい。④こたわりなく、平気なさま。⑤くすりばこ。「自家薬籠中の物」といえば、薬箱に入れた薬品と同じように、いつでも自分の思うままに利用できるもの。そのたとえに言う。⑥通訳。⑦自国の歴史・政治・文化などを他国より優秀なものとし、その保存・維持を旨とする主義。⑧野蛮人。

## 筆記体の利点

押井徳馬

欧米で筆記体が日常的に使はれなくなつて久しい。吾々の世代は中学の英語の授業でも一応筆記体を習つたし、試験の答案用紙に筆記体で書いても普通に採点されたものだが、現在はどうなのだらう。

中には、「筆記体で書くのは『中二病』」だの「知識のひけらかし」だのと言ふ人もゐるが、吾々の世代は中学で習つたから書いて当り前である。とは云へ、吾々の世代はブロック体重視だつたので、筆記体中心で教育を受けた親世代の方が断然綺麗に書ける。私が子供の頃、両親が英語の綴りを思ひ出す時に、手を動かして、つまり筆記体で単語を書きながら思ひ出すのをよく見たものである。続け字だからこそ、手の動きと記憶とが結びつきやすいもので、ブロック体では、かう上手くはいかない。

「筆記体は読みづらいから遠慮すべき」と云ふ意見には私は同調しない。特定の人に向けて書く時には配慮の必要の生ずる事もあるかも知れないが、一般論としては、アルファベ

ットは大文字と小文字でたつた五十二文字なのですぐ覚えられるし、読めない程汚い崩し方をせずに、読みやすい筆記体を中心掛ければよい。二十一世紀の現代でも、印刷物や看板等のレタリングやカリグラフィの世界ではよく見掛けるので、書くのはともかく、読めるに越した事は無い。

私はと云ふと、筆記体を書く腕が鈍らないやうに、そして筆記体文化を守る為に、正確さを要求される提出書類等は別として、個人的なメモを中心に手書きの英語はなるべく筆記体で書いてゐる。英語圏の人向けにイラストを描く時も、説明文を筆記体で書く事が多い。

### 十七歳

井上喜久子の「喜」の草体(菝)に「十七」が含まれる事からも解る通り、井上喜久子は17歳である事が名前によつて宿命づけられてゐる。(に)

## 歴史的仮名遣に纏はる思ひ出

名賀月晃嗣

今でこそ日常的に歴史的仮名遣を使つてゐる筆者だが、戦後も高度成長期の後に生まれたことからして、学校教育では現代仮名遣で書くことしか習はなかつたのは言ふまでもない。思ひ返してみると、歴史的仮名遣といふものの存在を知つたのはいつのことだつたか。小学校の時に百人一首をやらされたときあたりに何となくは知つた筈である。戦後直ぐに仮名遣が変はつたと理解したのは中学生の頃であらうか。憲法を改正して自衛隊を真つ当な軍隊に、とか思つてゐた「右翼」少年であつたから、仮名遣が変はつたり漢字が変はつたりした事実を残念に思つた。何しろ、現代仮名遣も常用漢字の字体も、恰好悪い。

高校に上がると古文の授業で読む為には歴史的仮名遣の読み方とか文語文法とかを習つた。文法はともかく、読み方は別にどうといふことはない。どうせなら書き方も講釈してくれば古文に似せた戯れの文章を、もつと恰好良く書けるのにな、とか思つてゐた。思つただけで勉強法を探したりはしなかつ

たのだが。

インターネットに触れたのは大学に入つてから、大学の施設で使つたのが最初である。情報科学科などに入つたから、レンタルサーバーのスペースを借りてなんちやつてウェブサイトを立ち上げてみたり、ウェブで二次創作を探して眺めたりしてゐた。その中で、HTMLとかCSSとかをどんな具合に書いたら良からうかとか調べてゐるうちに、CSSコミュニティに突き当たつた。今となつては随分懐かしい。そこから自動的に、この同人誌の監修者、野寄氏のことも知つたといふわけである。

「さうか、別に歴史的仮名遣で書いてええんや」

実際にはここまではつきりしたことを思つたわけではないと思ふが、どうせ記憶がぼんやりしてゐるので、劇的に再現してみた。理念的なことは二の次で、どうやつて書けば良いのか、入門解説のサイトを幾つかと、計算機での入力の仕事調べたのではないかと思ふ。ハウツーが先に立つのは、工

## 私の志集

あるときはあるやうで  
ほんたうはいつだつてないもの  
それは気力

あればいいなとおもつても  
やつぱりいつだつてないもの  
それが気力

気力なんてないさ  
それはまぼろし  
すつぱいぶだう

みんなあるふりしてゐるだけさ  
さうじぶんにいひきかせながら  
けふもただよこたはる

ふとむなしさをかんじたとき  
ふとゆきづまりにころがこはばつたとき  
「人生やめたい」とつぶやいてみた

もちがとんできた  
いみがわからない？  
わかれよ  
もちはおちなんだよ

もちはえんりよしない  
もちはようしやしな  
もちはおもんばからない  
もちはつねにわがみちをゆく  
なぜならそれがもちだから

(blueday)

# カルメラ・ダンダーと魔女の黒猫 第一回

名賀月晃嗣

のどかな山里、木々は青々としてをり、小川のせせらぎは透明で清げ。そんなところに暮らしてゐる割に、カルメラ・ダンダーの日常は爽やかなものではなかつた。

ともかく全てが面白くない。第一に面白くないのは継母である。カルメラが八つの年に父ヨーゼフ・ダンダー卿が再婚した。継母は二人の子を連れてきた。姉のゾフィーは物静かであるが、裏を返せば陰気。言葉数も少なく、何を考へてゐるのかカルメラには良く分らない。弟のフレデリクにさういふ気味悪さはないが、年下のくせに生意気で、活潑な分だけ乱暴で、うるさい。

それだけならまだ良かつたが、一昨年に父が亡くなつた後、何もかもが更に悪くなつた。継母はカルメラが成人してゐないのの良いことに、父の遺産を一手に握つてしまつた。カルメラは部屋を取り上げられ、物置小屋で起居することになつた。亡き父が買つてくれた綺麗な洋服はゾフィーの手に渡り、亡き母が遺してくれた宝飾類は継母が使つてゐる。三度の食

事をさせてゐるだけましと思へと言はんばかりの態度であつた。

頼りになる親戚でもあるなら、後ろ盾になつてもらつて、継母の非道に逆襲するところである。しかし、そんな親戚も知り合ひもないので、やむを得ず従つてゐる。御嬢様育ちのカルメラに、着の身着のまま出奔する度胸はなかつた。そのうち何とかなるといふ、良い育ちにありがちな、甘い観測もあつた。

ある日、カルメラは屋敷を抜け出して、村の外れをぶらぶらと歩いてゐた。屋敷にゐても継母や連れ子に嫌な顔をされるだけで、面白くない。さりとて村人に見付かれれば、これもうるさい。不遇の御嬢様を憐れむやうな目を向けてきたり、ひそひそ話をしたりする。自分が悪く言はれてゐるわけではなくても、非常に鬱陶しい。結局、村の外れまでやつて来て気を紛らはせることになるのだが、この日はそれもならな

つた。妙な者がゐた。

カルメラの行く先に立つてゐたのは、黒いところが帽子を被り、黒い衣を纏つた少女である。この村で、あるいは近くの町で、こんな奇矯な恰好をしてゐる者はゐるまい。関はり合ひにはなりたくない。カルメラはくるりと廻れ右をして、来た道を引き返さうとした。ところが。

「ねえねえ、そこのお姉さん。ちよつと宜しいですか」

黒尽くめ衣裳の少女が背後から声を掛けてきた。これはまづい。カルメラは無視して行かうとした。しかし、ニヤーンといふ鳴き声に阻まれた。見ると、いつの間にやら、黒猫が足許にゐるではないか。しかも懐つこく身体を擦り寄せてくる。この可愛い生き物を追ひ払つて行くことなど、カルメラにはできなかつた。しやがみ込み、黒猫の頭を優しく撫でてやる。猫は気持ちよささうに目を細めた。ああ、可愛い。カルメラはいよいよ丹念に愛撫した。

「可愛いでせう。その子、私の使ひ魔なんですよ」

黒尽くめが更に話し掛けてくる。

「使ひ魔？」

カルメラは思はず振り向いて聞き返した。しくじつたと思つた時にはもう遅い。少女は微笑みながら、こくりと肯く。

「私は魔法少女のウルリカ。私達は小鳥や小動物を使ひ魔として使役するんです。さあ、玄、あなたも御挨拶をして」

「うちの名前は玄つて言ふんや。宜しうな、お嬢ちゃん」

猫が物を言つたので、カルメラは目をまん丸くして驚いた。それを見て魔法少女がからからと笑ふ。猫もニヤーンと鳴いた。

ともかく口をきいてしまつたのだから仕方ない。カルメラは観念して、魔法少女と使ひ魔の相手をすることにした。

「私に何か用なの」

「魔法使ひの修行に、困つた人を助けるといふのがありまして、困つてゐる人はゐないかなあ、と思ひまして」

その言葉にカルメラはどきりとして、思はず訊ねた。

「私が困つてゐるやうに見えたの？」

「人間、誰でも、一つや二つ、困り事があるものですよ」

魔法少女ははぐらかすやうに言つて、また微笑む。

「ここで遇つたのも何かの縁です。玄をしばらくあなたに預けますから、何か思ひ付いたら玄に言つて下さい。さうしたらあなたの許に伺ひます」

「ずつと何も思ひ付かなかつたら？」

「その時は諦めて次を探しますよ。いつまで待つのかは私と玄の気分次第です。それでは、この恰好でうろうろしてゐたら不審に思はれてしまふでせうから、このあたりで失礼します」

ウルリカは軽く頭を下げると、黒い衣の中から箒を引つ張

り出して、それに跨つて飛んで行つてしまつた。カルメラは茫然として見送ることしかできなかった。そして、その後もしばらくその場に立ち尽くしてゐた。

「なあ、お嬢ちゃん、いつまでここでじつとしてたらええん？」

玄に訊かれて、カルメラはやうやく我に返つた。しかし、今からどこへ行かうか、案の持ち合はせがない。

「それぢや、取り敢へず、家に帰らうか」

カルメラは玄を抱へると、家路に就いた。その道中、ずつと、突然現れた魔法少女についてぐるぐると考へを巡らせてゐた。どうにも現実味が感じられなくて、気分が落ち着かなかつた。

そして、その夜。屋敷の母屋で夕食を食べたカルメラは、その一皿をこつそり物置に持ち帰つた。玄に食はせる為である。カルメラは、物置の裏手に玄を呼ぶと、その目の前に皿を置いてやつた。

「お嬢ちゃんはこの召使ひか何かなんか？」

玄が無遠慮に訊いてきた。カルメラは黙つたまま首を振る。「召使ひでもないのにこんな小屋に住んでるつて、どうにも分らんなあ」

猫がじいつと見つめてくる。これはどうもわけを話さなけ

れば駄目らしい。カルメラは仕方なしに身の上の話をした。父が再婚したこと、亡くなつたこと、そして屋敷が取り上げられたこと。

「継母はとにかく私のことが邪魔なのよ。早くどこかにお嫁に行かせようとしてゐるみたいだし」

「何やねん、それ。そんなら、お嬢ちゃん、物凄う困つてるんと違ふん。困つてるんならウルリカに頼めばええねんで」

「それはさうかも知れないけれど」

カルメラは苦笑ひを浮かべた。確かに現在進行形で困つてゐるが、何をどうしてもらつたら解決するのか、良く分らない。分らないまま頼んでも、魔法を使つて何とかしてくれるのかも知れないが、それは何だか怖かつた。親切心からしてもらつたことでも、自分を必ず助けてくれるとは限らない。そもそも、あの魔法少女を、どこまで信用して良いのかも分らない。

「具体的に何をどうして欲しいのか、それがはつきりしないと、頼む気にはならないわ」

「ふうん。それなら、しつかり考へてはつきりさせることやな」

玄はそれ以上は勧めなかつた。それよりも皿の上の魚の方が気になる様子。皿をそつと遠ざけると尻尾が力なく垂れ、逆に近付けてやるとそはそは揺れ出す。人語を解しても、魔

## あたご乗艦記



四月下旬、ツイッターのタイムラインを眺めていたら、偶さかりツイートされた一つのツイートが目に入った。自衛隊大阪地方協力本部によるもので、大阪港で護衛艦の一般公開をするといふ案内であつた。かねてより軍事にはそれなりの興味があり、昨夏からは艦これで遊んでゐる筆者は思つた。「さうだ、天保山に行かう」

今回の一般公開の対象となつたのは、所謂イージス艦の一隻、あたご。四月二十六日（土）、二十七日（日）の両日公開するといふ。それなら土曜日に見に行かう、といふことで、朝から出掛けた。昼頃に大阪市営地下鉄大阪港駅着。そこから港まで歩く間に飯を食ひ、十二時四十分頃に辿り着いた。予想はしてゐたけれども、人がずらりと並んでゐた。いや、まあ、コミケとかを思つたら全然大したことにはなかつたけれどもさ。それよりも、視界に入ったあたごの威容に嬉しくなつた。わざわざ見に来た甲斐があつた、と。早速スマートフォンで写真を撮つたり、デジタルカメラを取り出して写

名賀月晃嗣

## 原稿を書いてみませんか

今は少なくなった、歴史的仮名遣で作品を発表する場を作らうと創刊した「正かなづかひ 理論と実践」。「文学フリマ」「コミックマーケット」等の同人誌即売会や通販で頒布してゐます。

## 募集内容

- ・毎号のテーマに基づく随筆や論考等（テーマ投稿）
- ・歴史的仮名遣の特徴や理論、論考等
- ・コンピュータで歴史的仮名遣を使ふテクニク
- ・歴史的仮名遣による詩歌、小説、随筆、漫画等の創作作品
- ・半ページ〜四分の一ページ程度の短いコラム

第七号のテーマは近日ウェブサイトで発表予定です。国語問題に関する記事が多く集まる本誌ですが、テーマや国語問題に関係しない記事もむしろ歓迎いたしますので、お気軽にお書きください。

第七号のめ切は、二〇一四年三月下旬を予定してゐます。

なほ、執筆者や校正・組版等の作業を手伝つてくださつた方には、完成した冊子を一冊無料進呈致します。

## 投稿方法

本誌への投稿には、グループへの入会や会費のお支払ひは必要ありません（逆に、原稿料もお出しできません）。たゞし、スムーズな聯絡の為に、原則として電子メールアドレスをお持ちの方に限定致します。「はなごよみ」のメールアドレスまで、ご遠慮なくメールでお問合せください。

原稿も、メール本文に書いていたゞくか、メールにファイルを添付してお送りください。なほ、記事に関するご確認のため、編輯・校正・組版担当者にメールアドレスをお伝え致しますので、あらかじめご諒承ください。

また、スムーズな編輯・校正の為、以下の情報もメールでお知らせください。

①ペンネーム

②掲載ご希望の方は Twitter ID や電子メールアドレス

(読者からの聯絡先として、なるべくご記入ください)

③ ジャンル (解説、評論、小説、詩歌、随筆、漫画等)

④ 内容 (国語教育に関するエッセイ、学園もの小説、等)

⑤ 未完成の場合は予定文字数(文字数又は原稿用紙換算)

⑥ 漢字、仮名遣(正字正かな・新字正かな・広辞苑前文方式・新字新かな)

正字正かな 「櫻色のバッグを持つてゐる」

新字正かな 「桜色のバッグを持つてゐる」

広辞苑前文方式 「桜色のバッグを持つて居る」

新字新かな 「桜色のバッグを持つてゐる」

↓ 「桜色のバッグを持つてゐる」に直して印刷

⑦ 捨て仮名(ひらがなカタカナとも使ふ・カタカナのみ使ふ)「推奨」・使はない

ひらがなカタカナとも使ふ 「桜色のバッグを持つてゐる」

カタカナのみ使ふ 「桜色のバッグを持つてゐる」

使はない 「桜色のバッグを持つてゐる」

(一) 新字正かな兼新字新かなの事。ひらがな・カタカナとも捨て仮名使用推奨。言葉選びの難易度が高いので、歴史的仮名遣に十分慣れた人向けです。

(二) 小さな「ゃ」「ゅ」「ょ」「っ」の事。

## ファイル形式

文章は原則としてテキストファイルでお送りくださるか、メール本文にそのままお書きください。ワードや一太郎等ワープロソフトのファイルでも構いませんが、文章校正機能を使用可能なワードまたは LibreOffice を推奨します。

くの字点(ゝ・ゞ)は「/」で代用しても構いません。「正字正かな」をご希望の方は、コンピュータの一般的な文字コードに無い文字(二点之繞や「示」の形等示偏の漢字等)は新字で代用するか、注意書きを附加してください。編輯時に、フォントに字形のある範囲で、印刷用の正しい字形に直します。

写真やイラストや図ですが、残念ながらカラーは出ません(口絵を除く)。画像ファイルは、原則として文章とは別にお送りください(ワードで位置決めした内容をそのまま使ふのではなく、こちらで組版ソフトを使って組み直すので、元ファイルが必要です)。また、可能な範囲で、縮小されてゐないなるべく大きなサイズをご用意ください。なほ、本誌のサイズはA5版です。詳しくはメールでお問合せください。

## 著作権について

皆様の原稿は、「同人誌（紙版および電子書籍版）の原稿として」および「必要に応じ、同人誌頒布の際の内容見本として」使用しますが、作者に許可をいたゞかない限りは、それ以外の目的（他の本の原稿に転用する等）では使用しません。また、前述の目的に限って、皆様の原稿を使はせていたゞきますが、原稿の著作権そのものを譲渡していたゞくといふ意味ではありません。後でご自分の原稿を（ウェブサイトに載せたり個人誌・同人誌・商業誌に載せる等）どう活用していたゞくかは、お任せします。

それでは、皆様の作品を心よりお待ちしております。



## スタッフより

芥川龍之介「トロツコ」の主人公、良平は、物語の終盤で校正の仕事に就きます。そして彼はふと、子供の頃に暗い道を心細い思ひでべそをかきながら走つて帰つたあの日の事を思ひ出す、と言ひます。「塵勞ちんろうに疲れた彼の前には今でもやはりその時のやうに、薄暗い藪や坂のある路が、細々と一すぢ斷續してゐる。……」この言葉で物語は締め括られます。

同人誌の世界では、私の観察する範囲では、校正専門の担当者者を置く事はあまり見掛けません。新字新仮名で書く分には、コンピュータの日本語入力システムが誤字を親切に指摘してくれまし、学校で習ひ日常的に使つてゐる表記なのでまづ迷ふ事はありません。コンピュータでの組版システムも新字新仮名表記をベースに設計されてゐます。ですから、編輯者や組版担当者が校正担当を兼任する程度で十分な事が多いものです。

しかし、本誌のやうに歴史的仮名遣、時には正字も使ふとなると話は違ひます。コンピュータが標準では対応してゐない表記である上に、日常的には使つてゐない人も多い事、そして新字新仮名で書いた文章を基にした場合は正仮名に直す際に直し漏れが出やすい事と、ハードルは幾つもあります。本誌では、兼任ではない校正担当者が校正を行ふやうになつてから、劇的に誤植が少くなつた過去があります。

# 「正かなづかひ 理論と実践」 既刊の御案内



創刊号	2011年11月発行	定価 1,000円
第2号 特輯「正義と宗教」	2012年5月発行	定価 1,000円
第3号 特輯「病気と医療」「漫画とアニメーション」	2012年11月発行	定価 1,000円
第4号 特輯「歴史と文学」「安全」	2013年4月発行	定価 1,200円
第5号 特輯「国語問題」	2013年12月発行	定価 1,500円
2014春の増刊号 文藝特輯	2014年5月発行	定価 800円



併せてどうぞ： 国語問題——歴史のかなづかひについて——

野寄健秀・著／書肆言葉言葉言葉・発行

一般的な誤解とは逆に、現代表記こそ「密室で決まっつて非民主主義的に押しつけられた表記」であることを解説。

2012年5月発行／定価 300円

御注文ははなごよみまで：<http://osito.jp>